

平成26年度

公 営 企 業 会 計  
決 算 審 査 意 見 書

南アルプス市監査委員



南ア監第8-5号  
平成27年8月24日

南アルプス市企業局市長  
金丸一元様

南アルプス市監査委員 内藤希香  
同 望月健二  
同 浅野伸二

平成26年度公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、平成26年度南アルプス市水道事業会計及び南アルプス市自動車運送事業会計決算書並びに決算附属書類を審査したので、次のとおり意見書を提出する。

## 目 次

### 第1 審査の総括

(1) 審査の対象	1
(2) 審査の期間	1
(3) 審査の方法	1
(4) 審査の結果	1

### 第2 審査の概要と意見

(1) 南アルプス市水道事業会計	2
(2) 南アルプス市自動車運送事業会計	8

## 平成26年度公営企業会計決算審査意見

### 第1 審査の総括

#### (1) 審査の対象

- ① 平成26年度南アルプス市水道事業会計決算
- ② 平成26年度南アルプス市自動車運送事業会計決算

#### (2) 審査の期間

平成27年7月6日

#### (3) 審査の方法

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された平成26年度 南アルプス市水道事業会計及び南アルプス市自動車運送事業会計の決算については、その事業が地方公営企業法、その他の関係法令に基づいて常に経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されているか、決算書類が経営成績及び財政状況を適正に表示しているかどうかを検証するため、決算書、決算附属書類、諸帳簿及び証拠書類等について照合を行い、関係職員から状況を聴取し審査した。

#### (4) 審査の結果

審査に付された決算書、財務諸表及び附属書類は、いずれも地方公営企業法、その他の関係法令に準拠して作成されており、平成26年度における経営成績及び財政状況は適正に表示されているものと認められた。

また、諸帳簿及び証拠書類等と照合した結果、計数も正確で、いずれも符合していると認められた。

## 第2 審査の概要と意見

### (1) 南アルプス市水道事業会計

#### ① 業務実績について

##### 水道事業の概要

区 分	単位	平成24年度	対前年比	平成25年度	対前年差引	平成26年度	対前年差引	対前年比
市の年度末人口 (外国人を含む)	人	73,211	98.9	72,963	△ 248	72,715	△ 248	99.7
計画給水人口	人	75,430	100.0	75,430	0	72,900	△ 2,530	96.7
年度末給水人口	人	72,404	98.9	72,189	△ 215	71,905	△ 284	99.6
普及率	%	99.54	-	99.54	0	99.55	0	-
年度末給水戸数	戸	26,857	101.4	27,340	483	27,635	295	101.1
年間配水量	m <sup>3</sup>	10,392,603	87.6	10,174,665	△ 217,938	9,908,452	△ 266,213	97.4
年間有収水量	m <sup>3</sup>	8,201,769	90.0	8,139,043	△ 62,726	7,959,638	△ 179,405	97.8
一日平均有収水量	m <sup>3</sup>	22,471	90.0	22,299	△ 172	21,807	△ 492	97.8
有収率	%	78.92	-	79.99	1.07	80.33	0.34	-
年度末職員数	人	37	102.8	36	△ 1	32	△ 4	88.9
供給単価	円	119.72	97.9	119.85	0.13	120.10	0.25	100.2
給水原価	円	119.54	107.6	119.44	△ 0.10	118.40	△ 1.04	99.1
一日最大配水能力(A)	m <sup>3</sup> /日	43,700	100.0	43,700	0	36,000	△ 7,700	82.4
一日最大配水量(B)	m <sup>3</sup>	32,286	87.6	33,258	972	32,365	△ 893	97.3
一日平均配水量(C)	m <sup>3</sup>	28,473	87.6	27,876	△ 597	27,146	△ 730	97.4
負荷率(C/B)	%	88.19	-	83.82	△ 4.37	83.87	0.05	-
施設利用率(C/A)	%	65.16	-	63.79	△ 1.37	75.41	11.62	-
最大稼働率(B/A)	%	73.88	-	76.11	2.23	89.90	13.79	-

平成26年度末の給水状況は、給水戸数27,635戸、給水人口は71,905人で、前年度と比較すると給水戸数は295戸(1.1%)の増、給水人口は284人(0.4%)の減となり、核家族化の進行によるものと思われます。

水道利用状況は、総配水量9,908,452m<sup>3</sup>、有収水量7,959,638m<sup>3</sup>で前年度に比べ総配水量が266,213m<sup>3</sup>、2.6%の減、有収水量が179,405m<sup>3</sup>、2.2%の減となっている。

なお、有収率は、80.3%で、前年度と比べて0.3ポイント増加した。

給水収益を有収水量で除した供給単価は、120円10銭で前年度に比べて25銭高く、給水原価は118円40銭で前年度に比べて1円04銭安くなった。

また、負荷率、施設利用率は高いほど効率的であるが、平成26年度は、負荷率が0.1ポイント増加した。

一方、最大稼働率は、数値が高いほど施設の効率性は高いといえるが、100%に近い場合には、配水能力に余裕がなく安定給水という観点からは問題となる。

本年度の最大稼働率は、89.9%であり、昨年度に比べて13.8ポイント上昇した。

② 収益的収支について

○ 収益的収支決算額比較表

全体 (単位:円,%)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
水道事業収益	1,090,091,848	1,124,817,161	34,725,313	3.2
水道事業費用	1,021,493,729	1,084,731,114	63,237,385	6.2
当年度純利益	68,598,119	40,086,047	△ 28,512,072	△ 41.6

平成 26 年度の水道事業収益は 1,124,817 千円で、前年度に比べ 34,725 千円、3.2%増加した。

営業収益は、対前年度で 31,658 千円ほど減少したが、営業外収益では、66,352 千円ほどの増加となったことによる。営業外収益の増加の要因は、公営企業会計制度の改正により長期前受金戻入 71,117 千円が増えたことによる。

また、水道事業費用が前年度に比べ、63,237 千円、6.2%増加した。純利益は前年度に比べ、41.6%減少となった。

次に、予算額に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入) (単位:円,%)

科目	区分 平成25年度 決算額	平成26年度			増減額	増減率
		予算現額	決算額	対予算現額収入率		
水道事業収益	1,149,359,681	1,172,302,000	1,201,300,716	102.5	51,941,035	4.5
営業収益	1,110,324,770	1,076,173,000	1,102,815,396	102.5	△ 7,509,374	△ 0.7
営業外収益	39,034,911	96,129,000	98,451,618	102.4	59,416,707	152.2
特別利益	0	0	33,702		33,702	

(収益的支出) (単位:円,%)

科目	区分 平成25年度 決算額	平成26年度					増減額	増減率
		予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率		
水道事業費用	1,030,837,177	1,166,533,000	1,134,979,848	0	31,553,152	97.3	104,142,671	10.1
営業費用	913,944,464	1,010,083,000	969,275,223	0	40,807,777	96.0	55,330,759	6.1
営業外費用	114,777,213	136,559,000	145,115,285	0	△ 8,556,285	106.3	30,338,072	26.4
特別損失	2,115,500	18,891,000	20,589,340	0	△ 1,698,340	109.0	18,473,840	873.3
予備費	0	1,000,000	0	0	1,000,000	0.0	0	

※収益的収入及び支出には、消費税が含まれる。

### ③ 資本的収支について

平成26年度における決算額は、資本的収入224,886千円に対し、資本的支出は、822,199千円となっている。資本的収入額が資本的支出額に不足する額597,313千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額34,897千円、当年度分損益勘定留保資金383,427千円、減債積立金178,989千円で補てんされている。

資本的収支決算状況は、次のとおりである。

(資本的収入)

(単位:円,%)

科目	区分	平成26年度			増減額	増減率	
	平成25年度	予算現額	決算額	対予算現額収入率			
資本的収入	決算額	677,839,290	234,500,000	224,886,067	95.9	△ 452,953,223	△ 66.8
企業債	決算額	283,000,000	100,000,000	88,000,000	88.0	△ 195,000,000	△ 68.9
工事負担金	決算額	91,553,700	104,470,000	82,810,080	79.3	△ 8,743,620	△ 9.6
出資金	決算額	228,700,000	0	22,700,000	0.0	△ 206,000,000	△ 90.1
補助金	決算額	73,389,000	30,030,000	30,030,000	100.0	△ 43,359,000	△ 59.1
固定資産売却益	決算額	1,196,590	0	1,345,987	0.0	149,397	12.5

企業債は、高尾浄水場膜ろ過施設建設工事をはじめ在家塚配水池系送配水管布設工事の事業に対するものであり、工事負担金は、下水道工事に伴う移設補償料である。

また、出資金は合併特例債を適用した事業に伴う一般会計からのもので、補助金は、他会計補助金として旧楡形簡易水道及び旧甲西簡易水道の企業債償還元金に対するものである。

(資本的支出)

(単位:円,%)

科目	区分	平成26年度					増減額	増減率	
	平成25年度	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率			
資本的支出	決算額	1,533,823,894	1,042,147,095	822,199,415	22,407,840	197,539,840	78.9	△ 711,624,479	△ 46.4
建設改良費	決算額	1,229,981,191	731,561,095	511,613,760	22,407,840	197,539,495	69.9	△ 718,367,431	△ 58.4
企業債償還金	決算額	303,842,703	310,586,000	310,585,655	0	345	100.0	6,742,952	2.2

建設改良費は、これまで継続事業として実施してきた「高尾浄水場膜ろ過施設建設工事」及び「中央監視システム構築工事」によるものであり、また、水道ビジョンにおける施設統配合計画対象事業である「高尾第1減圧槽建設工事」、「在家塚配水池系送配水管布設工事」、「送水管布設工事（在家塚配水池今諏訪浄水場）」が含まれている。

その他、公共下水道事業及び道路改良工事に伴う配水管布設替工事によるものも含まれている。



④ 財務内容について

平成26年度の財務状況は、次のとおりである。

資産合計

(単位:円,%)

科目	平成24年度		平成25年度		平成26年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	13,009,292,627	86.3	13,761,917,101	87.6	13,595,943,818	89.1	△ 165,973,283	△ 1.2
流動資産	2,072,401,780	13.7	1,943,042,134	12.4	1,666,958,433	10.9	△ 276,083,701	△ 14.2
資産合計	15,081,694,407	100.0	15,704,959,235	100.0	15,262,902,251	100.0	△ 442,056,984	△ 2.8

固定資産の減の主な要因は、今年度は、大きな建設工事が少なく、新しい固定資産の増加額が少なかったことによる。

流動資産の減の主な要因は、未収金の減額によるものである。

負債・資本

(単位:円,%)

科目	平成24年度		平成25年度		平成26年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	391,243,952	2.6	380,981,796	2.4	4,769,256,277	31.3	4,388,274,481	1,151.8
流動負債	60,430,487	0.4	252,559,355	1.6	424,970,257	2.8	172,410,902	68.3
繰延収益					2,063,860,764	13.5	2,063,860,764	0.0
資本金	10,404,006,860	69.0	10,991,688,634	70.0	6,093,937,336	39.9	△ 4,897,751,298	△ 44.6
剰余金	4,226,013,108	28.0	4,079,729,450	25.8	1,910,877,617	12.5	△ 2,168,851,833	△ 53.2
負債資本合計	15,081,694,407	100.0	15,704,959,235	100.0	15,262,902,251	100.0	△ 442,056,984	△ 2.8

上記表の各科目の増減は、地方公営企業会計制度の見直しに伴うものである。

借入資本金の負債への計上変更、補助金等により取得した固定資産の償却制度の変更引当金（退職、賞与、貸倒）の計上が行われたものである。

⑤ 経営内容について

水道事業会計収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円,%)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
営業収益	1,044,514,160	1,058,227,350	1,026,569,499	△ 31,657,851	△ 3.0
給水収益	981,915,996	975,451,944	955,962,807	△ 19,489,137	△ 2.0
受託工事収益	41,316,000	57,970,000	46,450,000	△ 11,520,000	△ 19.9
その他営業収益	21,282,164	24,805,406	24,156,692	△ 648,714	△ 2.6
営業外収益	29,794,921	31,864,498	98,216,456	66,351,958	208.2
特別利益	0	0	31,206	31,206	—
計	1,074,309,081	1,090,091,848	1,124,817,161	34,725,313	3.2

営業収益の減の主な要因は、給水収益及び受託工事収益の減額によるものであり、営業外収益の増は、長期前受金戻入が増加したものである。

事業費用

(単位:円,%)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
営業費用	924,948,521	904,237,889	952,788,808	48,550,919	5.4
原水及び浄水費	169,935,599	166,636,501	166,730,956	94,455	0.1
配水及び給水費	94,209,502	86,240,510	73,655,496	△ 12,585,014	△ 14.6
受託工事費	60,938,619	47,384,803	50,718,937	3,334,134	7.0
業務費	78,233,506	79,530,910	83,622,236	4,091,326	5.1
総係費	123,707,306	106,790,010	123,517,090	16,727,080	15.7
減価償却費	396,501,024	416,703,861	446,685,441	29,981,580	7.2
資産減耗費	1,422,965	951,294	7,858,652	6,907,358	726.1
その他営業費用	0	0	0	0	—
営業外費用	116,444,749	115,241,073	111,480,182	△ 3,760,891	△ 3.3
支払利息	108,716,494	106,114,696	102,155,670	△ 3,959,026	△ 3.7
雑支出	7,728,255	9,126,377	9,324,512	198,135	2.2
消費税	0	0	0	0	—
特別損失	2,299,997	2,014,767	20,462,124	18,447,357	915.6
計	1,043,693,267	1,021,493,729	1,084,731,114	63,237,385	6.2

営業費用が対前年度 48,551 千円増額した要因は、総係費や減価償却費の増によるものである。営業外費用が対前年度 3,761 千円減少した要因は、企業債未償還残高の減少に伴い、企業債の支払利息が減少したものである。

## ⑥ むすび

国内の景気は次第に持ち直しの傾向を示してきてはいるが、大口需要企業の水利用は大幅な回復が見られず、水道使用料は減少し、給水収益は減少している。

平成 26 年度末の給水状況は、給水戸数は、前年度に比べ 295 戸増加したものの、給水人口は 284 人減少し、総配水量は前年度に比べ 266,213 m<sup>3</sup>減少した。

給水に対する水道利用状況の有収率を見ると平成 25 年度 80.0%、平成 26 年度 80.3% となっており、対前年度比 0.3 ポイント改善したものの依然として低い率となっている。今後とも漏水箇所の早期発見、早期の修繕を心がけ、効率の良い水の供給に努められたい。なお、経営状況をみると給水収益は 955,963 千円で、前年度に比べ 19,489 千円(2.0%) 減少したが営業外収益が 66,352 千円増加したことにより、収益的収入は 1,124,817 千円で、前年度に比べ 34,725 千円(3.2%)の増加となった一方、事業費については、施設の委託内容の見直し等による経費の削減に努めたが、減価償却費の増加や減耗費の増加、各種引当金の計上により増加し、本年度の収益的収支は前年度に比べ 41.6%減少し、40,086 千円となった。平成 26 年度は、継続事業で行ってきた「中央監視システム構築工事」も完成し、計画した合併特例債事業は全て完了し、さらに安全な水道水の安定供給が可能となった。大口需要企業の大幅な水利用の回復は、今後とも期待できないことや人口減少などから、水道使用料による収入の増加が見込めない状況である。

さらに、水道事業を取り巻く環境は、施設の老朽化に伴う更新、また水需要の減少に伴う料金収入の減少、さらには将来人口についても減少が確実視されており、厳しさを増すものと想定されております。これからも、水道料金の見直しを検討するとともに、更なるコスト縮減などにより経営の合理化に努め、安全な水道水を安定的に市民の皆様に供給し、安心して暮らせるまちづくりに努められたい。

(2) 南アルプス市自動車運送事業会計

① 業務実績について

(単位:人,個,回,%)

	平成24年度	平成25年度	対前年度比較		平成26年度	対前年度比較	
			増減	増減率		増減	増減率
大人	31,240	34,280	3,040	9.7	22,565	△ 11,715	△ 34.2
小人	475	512	37	7.8	262	△ 250	△ 48.8
計	31,715	34,792	3,077	9.7	22,827	△ 11,965	△ 34.4
手荷物	29,142	32,785	3,643	12.5	21,601	△ 11,184	△ 34.1
延運行回数	2,188	2,272	84	3.8	1,712	△ 560	△ 24.7

※運賃大人550円、小人280円、荷物代200円

県営林道南アルプス線(夜叉神～広河原間)及び県道南アルプス公園線(早川町奈良田～広河原間)の両線は、冬季通行止め解除後は、自然環境保護のため、平成17年度からはマイカー規制となっている。このため、市営バスの利用者は民間路線バス、タクシー、伊那市営バスの乗り継ぎ客がほとんどである。

平成26年度の輸送人数は、大人22,565人、小人262人の合計22,827人で、前年度と比較すると11,965人(34.4%)減少した。また、手荷物物品は21,601個を輸送し、延運行回数は1,712回であった。

運行状況は、6月25日から運行を開始し、11月4日までの133日間をバス6台により1日4往復運行し、広河原から北沢峠間の10.2Kmを片道運賃として大人550円、小人280円、別途荷物代200円で営業した。

② 収益的収支決算比較表

全体

(単位:円,%)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
運送事業収益	23,952,046	15,314,488	△ 8,637,558	△ 36.1
運送事業費用	18,284,603	20,788,162	2,503,559	13.7
当年度純利益	5,667,443	△ 5,473,674	△ 11,141,117	△ 196.6

当年度の決算額は、収益的収入15,314千円、収益的支出20,788千円、当年度純損失5,474千円であった。

次に、予算額に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円,%)

科目	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度			増減額	増減率
		決算額	決算額	予算現額	決算額	対予算現額 収入率		
自動車運送事業収益		22,713,720	25,143,748	24,495,000	16,528,901	67.5	△ 8,614,847	△ 34.3
営業収益		22,590,570	25,028,390	24,380,000	16,398,650	67.3	△ 8,629,740	△ 34.5
営業外収益		123,150	115,358	115,000	130,251	113.3	14,893	12.9

(収益的支出)

(単位:円,%)

科目	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度				増減額	増減率	
		決算額	決算額	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額			執行率
自動車運送事業費用		19,488,955	19,476,305	23,852,000	22,002,575	0	1,849,425	92.3	2,526,270	13.0
営業費用		18,826,455	18,761,005	22,214,000	20,964,435	0	1,249,565	94.4	2,203,430	11.7
営業外費用		662,500	715,300	1,018,000	519,100	0	498,900	51.0	△ 196,200	△ 27.4
特別損失		0	0	520,000	519,040	0	960	99.8	519,040	0.0
予備費		0	0	100,000	0	0	100,000	-	0	-

※収益的収入及び支出には、消費税が含まれる。

### ③ 資本的収支について

(資本的収入)

(単位:円,%)

科目	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度			増減額	増減率
		決算額	決算額	予算現額	決算額	対予算現額収入率		
資本的収入		0	0	0	0	0.0	0	0.0

(資本的支出)

(単位:円,%)

科目	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度				増減額	増減率	
		決算額	決算額	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額			執行率
資本的支出		0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
建設改良費		0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0

※資本的収入及び支出には、消費税が含まれる。

#### ④ 財務内容について

資産の部

(単位:円,%)

科目	平成24年度		平成25年度		平成26年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	8,402,607	17.7	6,659,492	12.5	4,916,381	10.2	△ 1,743,111	△ 26.2
流動資産	39,161,518	82.3	46,532,733	87.5	43,319,540	89.8	△ 3,213,193	△ 6.9
資産合計	47,564,125	100.0	53,192,225	100.0	48,235,921	100.0	△ 4,956,304	△ 9.3

負債・資本

(単位:円,%)

科目	平成24年度		平成25年度		平成26年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	1,647,406	3.5	1,847,723	3.5	2,136,723	4.4	289,000	15.6
流動負債	761,536	1.6	521,876	1.0	765,185	1.6	243,309	46.6
繰延収益	0	0.0	0	0.0	40,242	0.1	40,242	0.0
資本金	16,827,068	35.4	16,827,068	31.6	16,827,068	34.9	0	0.0
剰余金	28,328,115	59.6	33,995,558	63.9	28,466,703	59.0	△ 5,528,855	△ 16.3
負債資本合計	47,564,125	100.0	53,192,225	100.0	48,235,921	100.0	△ 4,956,304	△ 9.3

#### ⑤ 経営内容について

平成 26 年度の収益的収支勘定で前年度と比較すると、営業収益(運送収益)で 8,653 千円(36.3%)の減収となった。

今年度は、7 月上旬に夜叉神から広河原間で大規模な崩落事故が発生し、8 月末には復旧したが、10 月には再び 2 つの台風接近や大雨の影響により、広河原から北沢峠間の運行路線で崩落事故が発生し、林道の通行止めと悪天による影響で今年度は、9 月を除きシーズンを通して利用者は減少した。

事業収入

(単位:円,%)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率	
営業収益	21,514,870	23,836,590	15,183,998	△ 8,652,592	△ 36.3	
内訳	運送収益	21,514,870	23,836,590	15,183,998	△ 8,652,592	△ 36.3
	その他の営業収益	0	0	0	0	-
営業外収益	123,225	115,456	130,490	15,034	13.0	
内訳	受取利息	8,150	12,358	8,312	△ 4,046	△ 32.7
	補助金	115,000	103,000	107,000	4,000	3.9
	長期前受金戻入	0	0	14,939	14,939	0.0
	雑収益	75	98	239	141	143.9
計	21,638,095	23,952,046	15,314,488	△ 8,637,558	△ 36.1	

一方、営業費用を前年度と比較すると、1,984千円(10.9%)の増となった。  
この主な要因としては、前年度に比べ運転費が増によるものである。

事業費用

(単位:円,%)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率	
営業費用	18,413,330	18,284,603	20,268,924	1,984,321	10.9	
内訳	運転費	12,538,346	12,563,730	15,250,539	2,686,809	21.4
	車両修繕費	1,352,695	1,877,684	1,438,580	△ 439,104	△ 23.4
	その他修繕費	129,000	131,511	70,000	△ 61,511	△ 46.8
	減価償却費	2,994,391	1,743,115	1,743,111	△ 4	0.0
	保険料	566,245	642,445	615,030	△ 27,415	△ 4.3
	運輸管理費	383,249	321,194	440,323	119,129	37.1
	一般管理費	449,404	1,004,924	711,341	△ 293,583	△ 29.2
	資産減耗費	0	0	0	0	0.0
営業外費用	0	0	198	198	皆増	
雑支出	0	0	198	198	皆増	
特別損失	0	0	519,040	519,040	皆増	
その他特別損失	0	0	519,040	519,040	皆増	
計	18,413,330	18,284,603	20,788,162	2,503,559	13.7	

⑥ むすび

平成26年度は、かねてより取り組んできた南アルプスがユネスコエコパークに登録され、パンフレットを県内外の観光会社等にPR活動を行うことで観光客の増加を期待していたが、しかし、運行を開始してまもなくの7月上旬に、夜叉神から広河原で大規模な崩落事故が発生し、山梨県側からの交通手段は、早川町の県道南アルプス線のみとなり。

8月末には復旧したが、10月には2つの台風接近や大雨の影響により、広河原から北沢峠間の運行路線で崩落事故が発生し、林道の通行止めと悪天候による影響で、9月を除きシーズンを通して利用者は減少し、マイカー規制が始まって以来最低となりました。

今後においても、ユネスコエコパークの理念をモットーに「おもてなしの心」でお迎えするとともに、利用者の声を反映し、貴重な自然環境の保全を保ちながら、公共交通機関としての役割を十分配慮したなかで健全経営の堅持に努力されたい。